

2018年 01月 05日

2018年 社長年頭所感

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

本日1月5日（金）9時より、伊藤ハム米久ホールディングス株式会社本社（東京都目黒区）にて行われました、当社代表取締役社長 宮下功による「2018年 年頭所感」の要約を下記の通りご報告いたします。

記

昨年を振り返って

昨年を振り返ってみると、日本品質に対する信頼が揺らぐような話題が多かった一年だった。

当社グループも、食品メーカーとして、法令順守はもとより適正な社内基準の設定と正しい運用を行っていくことがとても重要であり、万が一、不測の事態やイレギュラーな事象が発生した場合には、速やかに報告・相談するようお願いしたい。事実関係を隠すことは、事故を起こすことよりも信頼を失うことになり、これが組織ぐるみとなると「隠蔽」との非難を招き、会社の信用やブランドを著しく傷付けることになる。

フルスイングでシナジー効果を発揮

ホールディング体制となり2年近くになるが、調達分野など短期的成果が期待できるシナジー効果は、今期も順調に上積みできており、当初の想定を上回るペースで成果が出ている。しかし、スピード感という点で物足りなさを感じる分野もある。今期の終わりにはフルスイングでシナジー効果が発揮できる状態にすることが目標であり、進捗が遅れている分野の関係者は、残り3カ月間を全力で取り組んでほしい。

商品力とブランドの向上

当社グループの成長と収益性の源は、「商品力」と「ブランド」の向上にある。外部環境が大きく変化し、企業間競争がより激しくなる中、「商品力」と「ブランド」を磨かなければ、価格競争に陥る結果となってしまう。「商品力」については、加工食品事業のみならず、食肉事業においても、グループで取り扱う商品により磨きをかけ、ユーザーニーズをより満たす商品の開発と生産を行い、それをしっかりとお客様に伝える営業と連動することも大切である。「ブランド」は、一朝一夕でつくり上げることはできない。特に「企業ブランド」は、個々の「商品ブランド」だけでなく、企業の規模や収益力、CSRやESGといった視点での評価、社風や従業員の評判といったものを含んだ総合評価である。

結び

新しい年の始まりに際し、グループで手掛ける商品を磨き上げること、そして各人の仕事の質を磨き上げ「企業ブランド」の向上につなげることを本年の抱負とし、商品と従業員一人一人のレベルアップに裏打ちされた、企業価値の向上を実現したい。

以上

本リリースに関するお問い合わせ先	伊藤ハム米久ホールディングス株式会社 総務部広報室 高武、眞島 Tel: 03-5723-6889 Fax: 03-5723-2091
------------------	---